全国瞬時警報システム（Jアラート）[弾道ミサイル情報]

配信時の基本的対応方針

学校法人 加茂暁星学園

〔 2017.12 作成
2022.12 改定 〕

全国瞬時警報システム（Jアラート）による弾道ミサイル情報が配信された場合の本学園における基本的な対応方針を次のとおりとする。なお、この基本的な対応方針以外で、各学校の状況により学校長が必要と判断した場合には、学校長の判断により対応するものとする。

1. 基本的な対応

通勤通学前、通勤通学途中、帰宅途中、学外等、一般的な行動は、内閣官房から示されているものとし、生徒・学生、教職員に周知する。

○内閣官房国民保護ポータルサイト（弾道ミサイル落下時の行動）

(<https://www.kokuminhogo.go.jp/kokuminaction/index.html>)

弾道ミサイル落下時の行動について

弾道ミサイルは、発射からわずか10分もしないうちに到達する可能性もあります。ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、国からの緊急情報を瞬時に伝える「Jアラート」を活用して、防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージを流すほか、緊急速報メール等により緊急情報をお知らせします。

①速やかな避難行動
②正確かつ迅速な情報収集

行政からの指示に従って、落ち着いて行動してください。

国民保護ポータルサイト
武力攻撃やテロなどから身を守るために
事前に確認しておきましょう。
http://www.kokuminhogo.go.jp/shiryu/hogo_manual.html

首相官邸 ホームページ www.kantei.go.jp/
首相官邸 Twitterアカウント
首相官邸災害・危機管理情報 @Kantei_Saigai

Jアラート（例）直ちに避難。直ちに避難。直ちに建物の中、又は地下に避難して下さい。ミサイルが落下する可能性があります。直ちに避難して下さい。

メッセージが流れたら
落ち着いて、直ちに行動してください。

屋外にいる場合 近くの建物の中か地下に避難。
（注）できれば頑丈な建物が望ましいものの、近くになければ、それ以外の建物でも構いません。

建物がない場合 物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。

屋内にいる場合 窓から離れるか、窓のない部屋に移動する。

近くにミサイル落下！

- 屋外にいる場合：口と鼻をハンカチで覆い、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内または風上へ避難する。
- 屋内にいる場合：換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

2. 学内の対応

(1) 通常授業及び定期試験

①授業、業務を一旦中断し、各自で身の安全をはかる。授業中の場合は、教員が中断を指示する。

【屋内にいる場合】

できるだけ窓から離れ、できれば窓のない空間に移動する。

【屋外にいる場合】

速やかに学校施設の屋内に避難し、できるだけ窓から離れ、できれば窓のない空間に移動する。屋内に避難できない場合、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。

②事務局で学内放送により J アラートがあった旨放送を行う。

(例)「只今、J アラートにより弾道ミサイル発射情報がありました。安全が確認されるまで待機してください。」

※Jアラートの内容により具体的な避難等の指示を行う。

③テレビ、スマートフォン等により情報収集を行う。また、必要に応じて情報を学内放送により伝達する。

④平常に戻る状況となったら、学内放送により待機を解除する。

(例)「安全が確認されました。待機を解除します。」

※土日・祝日等で担当する教員のみで授業を行う場合、スマートフォン等に配信される情報を基に担当する教員が中断等の指示を出す。

※定期試験期間中も同様とするが、中断した時間は繰り下げ措置により対応する。

⑤近くに着弾など緊急事態となった場合、臨時休校とし、生徒・学生の安全を確保しつつ、その場で待機させ、「(3) 緊急時の対応」のとおりとする。

(2) 入学試験

①学内放送等により試験を一旦中断する。

入試本部員が、学内放送等により試験中断を伝達する。筆記試験時は、試験監督者が答案用紙を伏せさせ、受験生をできるだけ窓から離すか、窓のない空間に移動し待機させる。面接試験時は、試験監督者が受験生をできるだけ窓から離すか、窓のない空間に移動し待機させる。(もし、試験室でアラートが鳴った場合は、一旦中断し時間を記録する。)

(例)「只今、J アラートにより弾道ミサイル発射情報がありました。安全が確認されるまで試験を中断します。」

②試験監督者は、不正行為に留意しながら待機する。

<ミサイルが通過するまで上記③同様>

<ミサイル通過>

③平常に戻る状況となったら、入試本部員は、試験再開が可能かどうか等の試験室の様子を確認し入試本部に報告する。その後、入試本部にて試験再開時刻と終了時刻を協議する。

- ④入試本部から、各試験室の監督者に試験開始時刻と終了時刻を伝達する。
- ⑤入試本部員は、学内放送等により試験を再開することを伝達する。
(例)「安全が確認されました。試験を再開します。試験監督者の指示に従ってください。」
- ⑥試験監督者は、受験者に試験開始時刻と終了時刻を伝え、試験再開時刻により試験再開を指示し試験を再開する。
- ⑦事務局は、交通機関の状況を調べて入試本部に報告する。必要に応じて、受験者に対し、試験終了後の交通機関の情報提供を行う。
- ⑧近くに着弾など緊急事態となった場合は、試験は中止し、受験生の安全を確保しつつ、その場で待機させ、「(3) 緊急時の対応」のとおりとする。

(3) 緊急時の対応

近くに着弾等の緊急の事態となった場合は以下のとおりとする。

- ①法人本部・大学・短大・高校合同の対策本部を設置する。
- ②対策本部を設置する場所は、通常、大学会議室とするが、入試等の個別行事の場合は各大学において対応とする。
- ③対策本部は、以下の教職員を基本に構成する。入試の場合は、入試に関連した教職員（入試委員長等）を加える。また、理事長・各学校長の判断により必要に応じて構成員を追加することができる。
 - 法人：理事長、常務理事、法人事務局長、室長
 - 大学：学長、経営情報学部長、観光経営学部長、事務長
 - 短大：学長、学科長、事務長
 - 高校：校長、副校長、教頭、事務長

3. 関連情報

- 内閣官房国民保護ポータルサイト（弾道ミサイル落下時の行動）
<https://www.kokumihogo.go.jp/kokuminaction/index.html>
- 総務省消防庁（全国瞬時警報システム（Jアラート）の概要）
<https://www.fdma.go.jp/about/organization/post-18.html>